平成30年度 石狩市教育委員会会議（11月定例会）会議録

平成30年11月13日（火）
第2委員会室

開会 13時30分

○委員の出欠状況

委員氏名	出席	欠席	備考
教育長 鎌田英暢	○		
委員 門馬富士子	○		教育長職務代理
委員 松尾拓也	○		
委員 山本由美子	○		
委員 穴水正	○		

○会議出席者

役職名	氏名
生涯学習部長（兼文化財課長）	佐々木 隆 哉
生涯学習部次長（教育指導担当）	佐 藤 辰 彦
生涯学習部次長（社会教育担当）	東 信 也
総務企画課長	安 崎 克 仁
学校教育課長	佐々木 宏 嘉
教育支援センター長	開 発 克 久
特別支援教育担当課長	森 朋 代
市民図書館副館長	清 水 千 晴
学校給食センター長	小 島 工
厚田生涯学習課長	相 原 真 一
生涯学習部参事（指導担当）	照 山 秀 一
生涯学習部参事（地域資料担当）	工 藤 義 衛
総務企画課主幹	松 永 実
総務企画課総務企画担当主査	古 屋 昇 一

議事日程

日程第 1 署名委員の指名

日程第 2 議案審議

- 議案第 1 号 平成30年度一般会計予算（第 6 号補正）について
- 議案第 2 号 指定管理者の指定の件について
- 議案第 3 号 家屋の損壊事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について

日程第 3 教育長報告

日程第 4 協議事項

- ① 平成31年度教育委員会予算要求について

日程第 5 報告事項

- ① 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
- ② 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について
- ③ 平成31年石狩市成人式の開催について

日程第 6 その他

- ① 特別支援教育講演会の開催について
- ② 「第 8 回科学の祭典in石狩」の開催について

日程第 7 次回定例会の開催について

開会宣言

（鎌田教育長）ただ今から、平成 30 年度教育委員会会議 11 月定例会を開会します。

日程第 1 会議録署名委員の指名

(鎌田教育長) 日程第1 会議録署名委員の指名ですが、松尾委員にお願いします。

日程第2 議案審議

(鎌田教育長) 日程第2 議案審議を議題とします。

議案第1号「平成30年度一般会計予算(第6号補正)について」、議案第2号「指定管理者の指定の件について」、及び議案第3号「家屋の損壊事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について」を非公開とする件

(鎌田教育長) 議案第1号「平成30年度一般会計予算(第6号補正)について」、議案第2号「指定管理者の指定の件」について、及び議案第3号「家屋の損壊事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について」は、石狩市教育委員会会議規則第15条第1項第4号に該当しますので、非公開案件として、後ほど審議したいと思いますが、ご異議ありませんか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、非公開とすることに決定しました。

日程第3 教育長報告

(鎌田教育長) 次に、日程第3 教育長報告を議題とします。11月定例会での教育長報告につきましては、お配りしております資料をご覧くださいまして、報告に代えさせていただきたいと思います。何かご質問等ありませんか。

(門馬委員) 11月6日に「北海道学び推進月間標語『石狩教育局最優秀賞』授与」が樽川中で行われていますが、これはどこが主催して、どのようにして選ばれたのでしょうか。

(佐々木学校教育課長) 毎年4月と11月を北海道学び推進月間として、家庭や学校における様々な取り組みを行っているものの一つとして、道教委において

この標語の募集を行っているものです。各教育局において最優秀作品 1 作品、優秀作品 2～3 作品を選び、その全 14 作品を北海道教育委員会のホームページに掲載しております。今年度は、石狩管内から 741 点の応募があり、その中から樽川中学校 1 年生の勝藤志歩さんの「教えあい 広がる知識 学びの輪」が最優秀賞を受賞されました。

(門馬委員) わかりました。ありがとうございました。

(鎌田教育長) 他にございますか。

(松尾委員) 11 月 8 日と 12 日に教職員の人事異動の協議をされていますが、何か特徴的なことがありましたら、お聞かせいただければと思います。

(鎌田教育長) まだ初期段階ということで、例えば、校長採用試験や教頭昇任試験の受験状況のほか、一般教員で誰が異動対象の年限を迎えているかなどについての情報交換を含めた協議を行ったところで、今後、特徴的な部分も含めて来年 1 月まで継続して協議が行われることになっています。

(松尾委員) わかりました。

(鎌田教育長) 他にご質問等はございますか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、教育長報告について、了承ということではよろしいでしょうか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、教育長報告について了承をいただきました。以上で、日程第 3 教育長報告を終了します。

日程第 4 協議事項

(鎌田教育長) 次に、日程第 4 協議事項を議題とします。

協議事項①「平成 31 年度教育委員会予算要求について」を非公開とする件

(鎌田教育長) 協議事項①「平成 31 年度教育委員会予算要求について」は、石狩市教育委員会会議規則第 15 条第 1 項第 4 号に該当しますので、非公開案件として、後ほど協議したいと思いますが、ご異議ありませんか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、非公開とすることに決定しました。

日程第 5 報告事項

(鎌田教育長) 日程第 5 報告事項を議題とします。

報告事項① 平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果について

(鎌田教育長) 報告事項①「平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果について」事務局より説明をお願いします。

(照山指導担当参事) 私から「平成 30 年度全国学力・学習状況調査結果の概要」についてご説明をいたします。結果報告書の 2 ページをご覧ください。この学力調査については 3 つの目的で行われております。1 点目は「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため」、2 点目は「上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること」、3 点目は、「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ということでございます。今年度は、平成 30 年 4 月 17 日(火)に市内小学校 13 校、中学校 8 校の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施されました。調査内容につきましては、教科に関する調査としまして、例年行われております国語、算数・数学に加え、理科を加えた 3 教科で行われたほか、家庭での生活習慣や学習環境等に関する質問紙による学習状況調査も行われました。

次に1ページをご覧ください。こちらに、今年度の結果の概要を記載しておりますのでご説明いたします。まず、学力調査ですが、教科の平均正答率を見ますと、小中学校とも全教科で全国平均を下回っております。小学校では昨年度よりも国語A B、算数A Bで全国との差を縮め、理科においても前回実施した平成27年度より差を縮めております。中学校では理科で全国との差を縮めました。国語A B、数学A Bで全国との差が広がりました。

学校毎にみますと、前年度より全国平均との差を縮めた学校や各教科・領域で大きく伸びた学校もありましたが、5つの調査科目の平均で全国を上回る学校数は昨年度より小中学校とも減り、小学校では13校中5校、中学校で8校中2校でした。

教育委員会事務局といたしましては、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあることから、学校、家庭、地域の連携した取組により、子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めております。

本調査は、「国語、算数・数学、理科」の学力面だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、自己有用感や規範意識、将来への夢、就寝・起床時刻など多くの項目で全国と同様・ほぼ同様の傾向にあることがわかりました。

一方、家庭での学習時間や読書時間、放課後・週末のゲームやインターネットなど家庭での過ごし方に課題が見られております。

また、授業に関する意識は全国とほぼ同様の傾向にありますが、授業内容の理解や話し合いを通じて自分の考えを深めることなどに課題が見られました。

学校質問紙からは、家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習の課題を与える」「保護者への啓発」「教職員間の共通理解」などに改善が見られ、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を上回りました。

また、学校力向上のため、地域人材活用や保護者の学校支援活動、小中学校間の連携が着実に進展していることがわかりました。

本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT学力検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も合わせて分析し、授業改善を図っています。

3ページからは小学校の学力の結果の概要を掲載しております。小学校国語では、国語Aの平均正答率は、全道・全国よりやや低い結果でしたが、昨年度より全国との差を縮めております。

6ページをご覧ください。小学校算数A・Bとも、全国・全道とほぼ同様の結果となっております。昨年度より、両方とも差を縮めているところでございます。

9ページをご覧ください。小学校理科の結果としましては、平均正答率は全道

と同様で、全国とほぼ同様の結果となっております。平成27年度より、全道の差、全国との差も縮めているところでございます。

次に、11ページからは中学校の学力検査の結果です。国語Aでは、平均正答率が全道よりやや低く、全国平均とほぼ同様（下位）ということで、昨年度と比較し、正答率が僅かに下がりましたが、全国と全道の差は、ほぼ同様となっております。

次に、15ページをご覧ください。数学Aの平均正答率について、全道・全国より相当低いという結果になっており、数学Bについても、全道・全国平均よりも低い結果となっております。

次に、19ページをご覧ください。理科の正答率について、全道・全国よりやや低いという結果でしたが、前回の調査と比較して、正答率は大幅に上がっているところでございます。

次に、22ページからは、児童・生徒の学習状況の概要を解説しております。まず、自己有用感については、全国・全道とほぼ同様の傾向にあります。

次に、23ページの将来の夢や目標に関する部分につきましては、小学生は全道・全国とほぼ同様ということになっています。

次に、24ページの規範意識についてですが、中学生に上がるほど高くなる傾向がみられております。

次に、24ページの下、いじめに対する意識につきましては、年齢を追うごとに年々高くなってきている傾向にはありますが、どんな理由があってもいけないと考えていない児童・生徒も僅かにいることから、なお継続して取り組むべき課題であると捉えております。

次に、25ページをご覧ください。朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時間に起きる・寝ると回答した児童・生徒は多いものの、正しい生活習慣に課題を持つ児童・生徒も一定数いることから継続して取り組んでいく必要があると捉えております。

次に、26ページをご覧ください。放課後に何をして過ごすことが多いかというところですが、小中学生ともに、家でテレビやビデオ、DVD、ゲーム、インターネットをしているという割合が最も多く、これについては全国よりも多いという傾向が見られております。

次に、28～29ページの家庭での学習習慣につきましては、全国と同様の傾向がみられております。しかし、30ページで記載のとおり、平日の家庭学習の時間が全国より少ないという点について課題が見られ、特に中学生では、全国より非常に短いという結果となっております。

次に、読書習慣についてですが、年々、読書に関する時間は増加しており、中学校では全国とほぼ同様の結果となっております。

31 ページでは、学習に対する興味・関心について記載しておりますが、算数、理科については、わかる・役に立つという答えが全道・全国と同程度でありました。

次に、34 ページでは、児童・生徒の地域や社会への関心について記載しており、全道も若干少ないという傾向が見られております。

最後に 35 ページからは、学校に対する学習状況調査の結果の概要を記載しております。学習規律の徹底、落ち着いて授業を受けるなどの様子は良い傾向が見られますが、ただ習得・探求などの学習であるとか、学習指導、授業の方法については、まだ工夫・改善の余地があると考えております。これについては、継続した取り組みが必要であると考えておりますので、教育委員会といたしましては、市全体の傾向を分析し、成果を上げている取り組み等を学校と共有して、各校の取り組みを支援して参りたいと考えております。私からは以上です。

(鎌田教育長) ただ今、事務局から今年度の市内の子どもたちの学力、学習状況の調査結果についての説明がありましたが、この件についてご質問等はありませんか。

(穴水委員) 授業改善という観点からお聞きしたいのですが、学習状況調査の学校質問紙結果のうち、39 ページにある「調査対象学年の児童・生徒に対する指導において、前年度に教員が大型展示装置等の I C T を活用した授業を 1 クラスあたりどの程度行いましたか」という質問に対して、ほぼ毎日行っていたという割合が小学校では全国比+39 ポイントであるのに対し、中学校では全国比-11.2 ポイントとなっており、約 50 ポイントも大きく開いているという状況にあります。これは、例えば中学校にはこういった装置が配置されていないといったような理由によるものなのか、それとも、まだ活用が十分行われていないということなのか、その辺がわかりましたら教えていただければと思います。

(照山指導担当参事) I C T に関わる部分でございますが、石狩市では各教室に実物投影機を必ず備え付けているところでございます。今、ご質問にありました部分でいけば、小学校については、発達段階から、説明をする際に実物投影機を使ったほうが理解しやすいといった特徴もあり、比較的多く使用されています。一方、中学校については、説明によりある程度理解できることや、概念的な事象も増えてきますので、小学校と比べるとあまり使用されていない傾向がみられます。小中学校の特性をふまえよりわかりやすい授業となるよう、I C T の活用については学校ごとに工夫した取り組みが行われているところです。

(山本委員) 今の質問に関連しますが、特に中学校の先生方というのは、こういう実物投影機を使った授業展開についての研修や活用例などを研修する機会というのはあるのでしょうか。

(照山指導担当参事) 研修の機会ということでは、市教委としては特段設けておりませんが、各学校の校内研究等で取り組まれていると捉えております。学校訪問をさせていただいた際に研究授業等が行われており、多くの授業で実物投影機やICTが活用されている様子も見受けられます。

(松尾委員) 関連してですが、小学校では先生方もこのような機器を活用して授業を行って、子供たちもそういう環境で授業を受け、その後中学校に進学するとあまり活用が進んでいなくて、従来の講義スタイルの割合が多いということなのかなと思います。そこで、このことについて、子どもたちがどのように捉えているのかという点と、先生方がこういったICTを活用した授業というものについて、どのようにお考えになっていらっしゃるのかということについて、少し教えていただければと思います。例えば、活用が上手くイメージできないのか、それとも中学校の課程においては、小学校と比べるとあまり活用できる度合いが少ないと感じていらっしゃる方が多いのかなど、その辺りの要因についてお聞かせいただければと思います。

(照山指導担当参事) まず、子供たちの受け取りですが、31ページにありますとおり、授業がよくわかるかという部分では、小学校と中学校の回答には差があるというように捉えております。ICTなどの機器をもっと活用することが、よりわかりやすい授業につながる一つのきっかけになる可能性もあるのではないかと捉えています。また、先生方の受け取りの部分についてですが、教科の指導内容によって活用することで効果が期待できる場面と、なかなか活用が難しい場面はあります。学習の形態や内容も小学校と中学校では異なるので、活用の度合いについては一概には申し上げられませんが、使用にあたり、小学校では担任が自分の教室で授業を行うわけですが、中学校は各学級を跨いで移動するため設置準備をするのに時間がかかるなどの問題もあるようです。もちろん、ICTや実物投影機等を使う授業をしている先生も多くおり、電子黒板やICT機器などを使用する効果として、先生方からは音声が出たり、画像が大きくなったり、画像に文字や矢印等を書き込むことができ、子供たちの理解が進むという声もあります。その一方、現状では教材準備に時間がかかるという声もいただいております。その要因には様々なものがあると思います。

(松尾委員) 最近使われている実物投影機等も含めて、そんなに準備が大変なようなもののようなイメージはあまり持っていなかったものですから、中学校であまり活用されていないということに、何か別の理由があるのかと少し思っていたところでした。これを使えばいいというよりは、これを活用してより良い授業ができるということの方がもっと大事なことなので、もう少し細かな分析をして、市教委としても考えていかなければならないのではないかと感じました。

(鎌田教育長) 実物投影機については、石狩管内では本市が先駆けて全学校の全教室に配置したという実績はあるのですが、あっという間に状況が変わりまして、今、管内の大半は電子黒板を導入しております。そのような中で他の市町村と同じ傾向なのかどうか、中学校の先生たちの意識の問題なのか、それとも設備の問題なのかどうかなどについて、しっかり分析をしなければならないと思っています。

(門馬委員) そもそも中学校の先生方は、このような機器について役に立つと思っていらっしゃるのかなと、素朴に思ってしまいました。わかりやすい授業をするために、あまり役に立たないと思ったら活用しようとは思わないし、加えて準備に時間がかかるとなると敬遠したくなるわけで、実際に現場の先生はどう考えていらっしゃるのかなと素朴な疑問を持ちました。

(穴水委員) 要因の一つは、小学校では担任制が主であることに対し、中学校では完全に教科担任制であるというスタイルの違いが大きな影響を与えているかと思います。特に中学校では、教科担任制になると教師主導型、講義型のスタイルになりがちなのです。ただこのスタイルは、これからの新学習指導要領では完全に否定されることとなり、あくまでも子供たちが主体になって授業を展開するという形でなければ、今の子供たちにとっては、授業の効果が上がってこないということになるかとも思いますので、授業改善ということを早急に取り組んでいただければと思います。

(佐藤教育指導担当次長) 小学校と中学校の実物投影機の活用方法の違いという点では、拡大して見せることについては中学校の授業でも効果があると思いますが、小学校は例えば教師が行うリコーダーの指使いをテレビに映して実際にやって見せたり、絵の具の塗り方など、実物投影機を活用するにふさわしい教材があるということも確かであると思います。それで今おっしゃられていたよ

うに授業改善については、小学校は問題解決的な学習で、子供たちが自分の考えをノートに書いて、そのノートを実物投影機に写して、「僕はこのように考えました」「どの考えがいいんだろうか」というような授業をするのですが、中学校の場合、1時間の学習内容に教えることが多くて、なかなか子供たちに自力解決でいろいろな方法を出させるというような授業までには至っていないというのが事実です。ただ、主体的・対話的で深い学びを作っていくためには、やはり授業改善は必要だと考えており、教えるだけ、教え込みの授業では駄目なんだということについては、中学校でも理解していることですので、今後の実物投影機の活用や、教育長がおっしゃられたように電子黒板等が導入設置されれば、有効に活用するための研修も行っていかなければならないと考えているところです。

(穴水委員) 活用方法の一つの例として、電子黒板も教師が使うのではなく、子供たちに使わせて、例えばあらかじめ与えていた課題を発表させるといったような工夫をしていけば、もっと有効に活用されるのではないかという気がします。

(鎌田教育長) 今、穴水委員がおっしゃったような発表型の授業は、高校でもよく行われていますね。今後は実物投影機ではなく、電子黒板をしっかりと整備していかなければならないと思っております。

(穴水委員) わかりました。

(鎌田教育長) 他にご質問等はございますか。

(松尾委員) 今回の報告は、全市的な小学校と中学校の傾向を示した結果であり、それぞれの学校によってかなり違いがあったのではないかと思います。市独自のCRT検査も以前から実施してきて、一人の児童生徒がどのように成長してきたかというような経過の調査分析をされていると思うのですが、今回の調査結果との相関関係について、大体どのような傾向になっているのかを教えてください。

(照山指導担当参事) CRT検査については、経年での調査分析を行っていますが、小学6年生時点における両方の検査・調査の結果を見ると、同じような傾向を示しております。

(松尾委員) 全国学力・学習状況調査は、ある一時期の1回のテストなので

が、やはり普段の積み重ねが現れているということではないかと思います。それで連動しているということであれば、子供たちが伸びている取組がいくつかあるのではないかと思います。学校の取組として特徴的なものがありましたら教えていただきたいと思います。

(照山指導担当参事) 学力を左右する要因については、学校での授業のみならず、学級の人数や1学級あたりの先生の数、家庭の状況、入学時の成績等の様々なものがありますが、学校で学力向上の取組の一つと行われているものとしては、補充学習や習熟度別学習などがあります。

(松尾委員) もちろん断定はできないとは思いますが、効果的な取り組みはいくつかあるが、同じ取組を他の学校でも行うには、いくつかのクリアしなければいけない課題があるという理解でよろしいでしょうか。

(照山指導担当参事) はい。

(松尾委員) わかりました。今後もそういったことを考えていながら、できるだけ良い取り組みを広げていくということが大事であると思いますので、今後も宜しく願いいたします。

(鎌田教育長) 他にございますか。

(門馬委員) この結果を見ますと、石狩市の小中学生は、全国と比べて残念な部分も現実としてあるわけですね。その原因について分析してくださっていますが、報告を伺っていると、「学校側、先生方は大変努力をされている」というのはよくわかるわけです。学校での学習は、学校という現場で一生懸命されていますが、その一方で「家庭学習というのはどうなっているのだろう」という観点から見ますと、1ページの「はじめに」において、「家庭での学習時間や読書時間、放課後・週末のゲームやインターネットなど家庭での過ごし方に課題が見られます。」とあり、これは26～27ページの「放課後何をして過ごすことが多いですか。」「週末に何をして過ごすことが多いですか。」の質問に対する結果にも顕著に出てきているわけですね。全国平均の子供たちは家で勉強や学習をしているときに、石狩市の小中学生はテレビやビデオ、インターネット等をしているという結果が出ているわけですね。家庭での学習の結果が、やはり成績という形で出てきているのかなという気がするのですが、一方で、石狩市教委としては、「いしかりふれあいデー」などの取組を行って、インターネットやゲームに費や

す時間を、親子で過ごす時間にする啓発活動もしているのですが、その効果についてはいかがなのでしょうか。

(東社会教育担当次長)「いしかりふれあいデー」につきましては、毎月第1・第3日曜日はゲームなどに使わず、家庭での団欒も含めた時間にしていただきたいということで、学校とPTA、市教委が一体となって取組をしております。率直に申し上げまして、PTAの役員の方々の理解は深まってきたのではないかと感じており、これから更に進めなくてはならないと思っております。学校を経由して、またはPTA活動の中で、保護者の方々にご理解いただくという部分については、なかなか運動を広げていくという形しか取れないということがございますので、その大切さというのをしっかり理解をしていただいて、子供たちが学習も含めて必要なことをしっかりできるような環境を作っていくという取組を、これからも粘り強く続けていきたいというように思っております。結論としましては、まだ、ここまでできましたというようには申し上げられないのが率直なところであります。

(門馬委員) 家庭の中まで、なかなか行政が入り込むことはできませんので、地道な啓発活動に留まるというのはわかるのですが、できるだけ保護者の方々の意識が高まるような活動を我々もやらなくてはいけないと思いました。

(松尾委員) 関連した意見です。常日頃から思っているのですが、学校の中の過ごし方というのは、ある程度、学校の先生方が関わって変えていくことはできるわけですが、終わってからの時間をどう過ごすのかというのが、やはり難しく、そこをどう過ごしていくのかによって、学力だけではなくて、いろいろなところで違いが出てくるのかなと思っています。今、門馬委員がおっしゃられたように、そこは行政だけでできることではないのですが、啓発だけでいいのかというと、もうちょっと何か手があるのではないかなと思うのです。いろいろな方々と一緒になって、もう少し何かできないかということ、やはり調査研究して、その前に皆で考えていくということが必要ではないかと思っています。なかなか「これをやりましょう」というのはないですが、これまでお話を伺った中でも、様々な地域で子供たちの放課後の過ごし方の取組も、全国各地で行われています。そういったことも学びながら、地域の皆さんと問題意識を共有しながら、我々もあともう一步、具体的に少し足を踏み出すことを考えなければならない時期になってきているのかなというように感じております。以上です。

(鎌田教育長) 委員の皆さんのご意見を伺い、市内の子供たちの学力云々も確

かにその通りなのですが、この調査目的や結果を踏まえて、今後の改善も含めて、これからどのように進めるかが一番大事なことなので、教育委員会としても、しっかり現状を把握しながら、次のステップにいけるように努力していかなければならないというように思っています。地道にやるしかないかなと思っています。

(門馬委員、松尾委員 了承)

(鎌田教育長) 他に質問等がありますか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、報告事項①を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、報告事項①を了解しました。

報告事項② 平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について

(鎌田教育長) 報告事項②「平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査『北海道版結果報告書』への市町村別結果の掲載に係る同意について」、事務局より説明をお願いします。

(照山指導担当参事) 報告事項②をご覧ください。本文の冒頭にありますが、「平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領」では、教育委員会や学校が保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要であると明記されるとともに、都道府県教育委員会は域内の市町村教育委員会の同意を得た場合には、当該市町村名又は当該市町村教育委員会が設置管理する学校名を明らかにした公表を行うことができるとされています。

道教委では、この実施要領に基づき一層きめ細かく分かりやすい調査結果を示す観点から、昨年度同様、市町村教育委員会の同意を前提として、2月を目処に公表を予定している平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海

道版結果報告書」(以下「北海道版結果報告書」という。)への掲載についての照会があり、別添3により作成した市町村の結果を掲載し公表することとしました。石狩市としまして、2ページのとおり昨年に引き続き、結果の掲載について同意する旨、回答しましたことをご報告いたします。以上です。

(鎌田教育長) ただ今、事務局から説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、報告事項②を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、報告事項②を了解しました。

報告事項③ 平成31年石狩市成人式の開催について

(鎌田教育長) 次に、報告事項③「平成31年石狩市成人式の開催について」、事務局より説明をお願いします。

(東社会教育担当次長より、資料3ページを説明)

(鎌田教育長) ただ今、事務局より説明がありましたが、この件について、ご質問等ありませんか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、報告事項③を了解ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、報告事項③を了解しました。

日程第6 その他

(鎌田教育長) 次に、日程第6 その他を議題とします。

その他① 特別支援教育講演会の開催について

(鎌田教育長) その他①「特別支援教育講演会の開催について」、事務局より説明をお願いします。

(森特別支援教育担当課長より、資料4 ページ目を説明)

(鎌田教育長)

ただ今、事務局より説明がありましたが、この件について、ご質問等ありませんか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、その他①を了解ということによってよろしいでしょうか。

異議なし

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、その他①を了解しました。

(鎌田教育長) その他②「第8回科学の祭典 in 石狩」の開催について、事務局から説明をお願いします。

(清水市民図書館副館長より、別紙チラシを説明)

(鎌田教育長) ただ今、事務局から説明がありましたが、この件について、ご質問等ありませんか。

質問なし

(鎌田教育長) 他に質問等がないようですので、その他②を了解ということにより、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(鎌田教育長) ご異議なしと認め、その他②を了解しました。以上で、日程第6その他を終了します。

日程第7 次回会議の開催日程

(鎌田教育長) 日程第7 次回会議の開催日程を議題とします。次回については、12月18日の火曜日、13時30分からの開催を予定しておりますので、宜しくお願い申し上げます。以上をもちまして、公開案件は終了します。非公開案件の説明員以外の方は、ご退席願います。

【非公開案件の審議等】
14時22分～15時04分

閉会宣告

(鎌田教育長) 以上をもって、11月定例会の案件は全て終了いたしました。これをもって、平成30年度教育委員会会議11月定例会を閉会します。

閉会 15時05分

【非公開案件の審議等の結果】

議案第 1 号 平成 30 年度一般会計予算（第 6 号補正）について

原案どおり可決した。（質疑等省略）

議案第 2 号 指定管理者の指定の件について

原案どおり可決した。（質疑等省略）

議案第 3 号 家屋の損壊事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について

原案どおり可決した。（質疑等省略）

協議事項① 平成 31 年度教育委員会予算要求について

事務局からの説明について、了解した。（質疑等省略）

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成 31 年 1 月 22 日

教育長 鎌田英暢

署名委員 松尾拓也